

第2次 八丈町 子ども読書活動 推進計画

2018年～2022年

第2次八丈町子ども読書活動推進計画

〈目次〉

はじめに	3
● 第1章 基本方針 ～すべての子どもに読書の楽しさを～	
1 基本方針	4
2 目的	4
3 計画の期間	4
● 第2章 1次計画の効果	
1 ブックスタート	6
2 町立図書館の利用についてのガイダンス〈小学校新1年生向け〉	6
● 第3章 2次計画の取り組み	
1 1次計画の課題解決のための取り組み	7
(1) 子どもが町立図書館に興味をもつように工夫した図書館環境の整備について	
(2) 小学校・中学校の図書担当教諭との連携の充実	
(3) 「推進計画」全般について	
2 読書活動の啓発	8
(1) 読み聞かせの勉強会	
(2) 各地域でのおはなし会や文庫まつりの開催とお知らせ	
(3) ブックスタートの評価	
(4) 関連団体との連携の充実	
● 第4章 推進のための具体的な取り組み	
1 家庭での読書活動	9
(1) 家庭での読書活動推進への働きかけ	
○ 保護者と読書	
○ 小学生・中学生の読書	
(2) 家庭での取り組み	
○ 生活の中で 一本のある環境づくり	
○ 読み聞かせ	
○ 保育園の絵本コーナーや小学校・中学校図書室、町立図書館の利用	
○ 八丈町全体の読書環境整備への協力	

2 地域での読書活動 10

(1) 地域での読書活動推進への働きかけ

- おはなし会
- 文庫まつり

3 各年代における読書活動 11

(1) 0歳児に向けた取り組み：本に出会う

- ブックスタート
- 家庭での本とのふれあい

(2) 幼児期に向けた取り組み：本の楽しさを知る

- ブックスタートの次へ
- 保育園での読み聞かせ

(3) 小学生に向けた取り組み：本に親しみ、本の世界を広げる

- 町立図書館ガイダンス
- 学校図書室の利用
- 中学校との連携

(4) 中学生に向けた取り組み：本から学び、自己に活かす

- 学校図書室の利用
- 小学校との連携

4 町立図書館での読書活動 14

(1) 各年代に向けた取り組み

- 幼児に向けて
- 小学生に向けて
- 中学生に向けて
- 小学校・中学校の図書担当教諭との連携

(2) 読み聞かせの勉強会

(3) おはなし会や文庫まつりなどイベントの開催

(4) 各年代向けのおすすめ本リスト作り

(5) 読書の楽しさや2次計画を広く知らせる

(6) 関連団体との連携

資料編 八丈町 読書についてのアンケート 16

(小学生・中学生対象 平成27年12月実施)

はじめに

子どもにとって読書とは、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をよりよく生きるための力を身に付けていく上で欠かすことのできないもの」です。

八丈町においても平成25年3月に「八丈町子供読書活動推進計画」を策定し、それまで取り組んできた読書活動のほか、新たに町立図書館のガイダンスやブックスタート事業などを実施して来ました。一定の成果はあったものの課題も残ることから、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、今後の基本方針を定めた「第2次八丈町子ども読書活動推進計画」を策定しました。

読書をとおして子どもの人生がより豊かなものになるよう、第2次計画に基づき、家庭、地域、学校、図書館がともに連携・協力しながら計画を進めてまいります。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成30年3月

八丈町教育委員会 教育長 佐藤 誠

● 第1章 基本方針

1 基本方針

～すべての子どもに読書の楽しさを～

八丈町では、子どもが自主的に読書し、また、健やかに成長できるように「八丈町子供読書活動推進計画」（以下「1次計画」という。）を策定し、家庭、地域、保育園、小学校、中学校、図書館などで取り組んで来ました。

読書をとおして子どもの人生がより豊かなものになるように「第2次八丈町子ども読書活動推進計画」（以下「2次計画」という。）を策定し、引き続き読書活動を進めていきます。

2 目的

子どもの読書は、人生をより深く、より豊かに生きる力を身に付けるために必要なものです。読み聞かせや自然体験により想像力を膨らませ、本の世界をとおして興味や関心を広げることで、自ら考え、判断し、表現する能力を育むことができます。

「子ども読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）および「第三次東京都子供読書活動推進計画」（平成27年2月）に基づき、八丈町の子どもが生涯に渡り主体的な読書ができるように、読書環境の整備・読書機会の提供・読書活動の啓発の取り組みを推進します。

《各年代のテーマ》

- 0歳児期 ：「本に出会う」
- 幼児期（1歳～）：「本の楽しさを知る」
- 小学生 ：「本に親しみ、本の世界を広げる」
- 中学生 ：「本から学び、自己に活かす」

3 計画の期間

この計画は平成30年4月から平成34年3月までの5年間とします。また、実施結果に基づき、新たな計画の策定に取り組めます。

想像力の種類

※講演会「晴れ ときどき 本一本を楽しむきっかけづくり」

(講師：坂部豪氏) より一部抜粋。(2015年8月1日開催)

想像力には2種類あります。視覚的、図鑑的に物事を認識し再現する想像力(図鑑型想像力)とストーリーを考えて展開していく想像力(物語型想像力)です。言葉を学び、物事を想像し、表現力を高めるには、両方の想像力が必要になります。

言葉とは氷山のようなものです。さまざまなイメージは意識する、しないを問わず氷山の水面下に隠れています。海上に出ている部分が言葉になりますが、水に隠れている部分を大きくしないと言葉は十分に成熟せず、表現は豊かになりません。

図鑑型想像力は「物」のイメージを明確にしますが、視覚を含め体験し認識したことが基盤になります。したがってさまざまな生活体験、自然体験をすることが必要です。

たとえば「犬」という言葉を目にした時、種類、外見、におい、様子、関係する記憶など、犬に関わるさまざまな経験があつてこそ自分の中の「犬」が明確になり、想像することができるようになります。また、「犬」という言葉を用いた時に、それがどのような「犬」か想像することができるようになるのです。

子どもだけでなく大人も同じです。自然体験を積み、言葉にする経験を重ねてイメージを作り上げることで、豊かな想像力を持ち、表現力を高めることができるのです。

● 第2章 1次計画の効果

1 ブックスタート

- 【目的】 赤ちゃんと保護者に、絵本をとおして心ふれあう時間をもってもらいます。
- 【内容】 3～4か月乳児健診の最後に趣旨の説明と、ボランティアによる読み聞かせを行いました。平成26年度～平成27年度105人に実施しました。
- 【評価】 ・読み聞かせの重要性を直接保護者に伝えることができるため、対象者の満足度が高いものとなりました。
・健診を実施している関連部署や、ボランティアとの連携が強化されました。

2 町立図書館の利用についてのガイダンス〈小学校新1年生向け〉

- 【目的】 すべての子どもが町立図書館を利用できるようにします。
- 【内容】 平成26年度から、授業時間を利用して新1年生に向け町立図書館の利用案内や貸出方法を説明し、図書貸出カードの発行を開始しました。（既登録者を除く。）
- 【評価】 ・図書館利用の第一段階として、子どもに直接説明ができる良い機会であり、小学校との連携が取れました。
・子どもの図書館利用率が増加しました。

● 第3章 2次計画の取り組み

1 1次計画の課題解決のための取り組み

1次計画の課題を解決するため、以下のように取り組みます。

(1) 子どもが町立図書館に興味をもつように工夫した図書館環境の整備について

【目的】 子どもが自ら本に興味をもち、手に取るようにします。

【内容】 おすすめ本リストの作成、配布を行います。

〈今後の方針〉

- ・特に長期休みは子どもが本に触れる機会が増えるため、本に親しみ興味をもつことができるよう、おすすめ本リストを作成します。
- ・リストでは各年代向けの本を紹介するほか、読み聞かせに向けた絵本も併せて選び、保護者にも興味をもってもらえるようにします。
- ・子どもの興味に対応し、幅広い分野から本を紹介できるよう、選書は子ども文庫など関連団体の協力を仰ぎます。
- ・児童書の蔵書構成を魅力のあるものにするため、選書や配架の工夫も行います。

(2) 小学校・中学校の図書担当教諭との連携の充実

【目的】 子どもの読書への興味を維持させます。

【内容】 小学校・中学校の図書担当教諭と町立図書館との情報交換や連携を行います。現状を把握するため、各小中学校の協力のもとアンケート調査を実施しました。(巻末資料編)

〈今後の方針〉

- ・学習資料の購入希望調査や町立図書館の新着本リスト掲示の依頼など、学校ごとの情報交換に努めます。

(3) 「推進計画」全般について

【目的】 「推進計画」の周知が不足していたため、認知度を上げます。

【内容】 「推進計画」を学校関係者や関連団体に配布し、説明します。

〈今後の方針〉

- ・2次計画では策定時の周知だけでなく、新任教諭などの転入者に対して配布する、おすすめ本リストに記載して紹介するなど、様々な機会での周知に努めます。

2 読書活動の啓発

読書活動の啓発に向け、2次計画で新たに取り組む事業です。

(1) 読み聞かせの勉強会

小学校やブックスタート、団体などで読み聞かせをしている人や、子どもに読み聞かせをしたい人に向け、勉強会を実施します。作者や作品への理解が深まることで、子どもに向けて本の楽しさをより伝えられるようにします。

(2) 各地域でのおはなし会や文庫まつりの開催とお知らせ

おはなし会や文庫まつりは、家庭の外で広く本に触れる機会です。各地域の子ども文庫によるおはなし会の開催日を町立図書館で知らせ、在住地域以外のおはなし会にも参加できるようにします。

また、文庫まつりをより楽しめるように、講師の著作など関連した本を紹介し、リストを配布します。

(3) ブックスタートの評価

1歳6か月児健診の時にアンケートを実施し、対象者の満足度を調査します。また、家庭での本の活用状況や町立図書館の利用状況を調べ、ブックスタートをより良くするための資料にします。

(4) 関連団体との連携の充実

各地域の子ども文庫などの団体と町立図書館との情報交換や連携を行います。

● 第4章 推進のための具体的な取り組み

1 家庭での読書活動

子どもの読書習慣は、日常の生活をとおして形成されます。子どもの発達段階や性格などをよく理解し、子どもに適した読書活動を行うよう保護者が配慮することが大切です。

(1) 家庭での読書活動推進への働きかけ

○ 保護者と読書

読書は知識や情報を収集し、想像力と判断力を養い、心豊かな憩いの時間をもたらすなど、大人にとっても欠かせないものです。保護者が家庭内で楽しんで読書することは、自分のためだけでなく、その姿を見て読書に興味をもち、本とふれあう手本となり、子どもに対し大きな影響を与えます。

○ 小学生・中学生の読書

小学校高学年から中学校にかけて、学校生活の忙しさや興味の拡大から、読書への関心が薄れる傾向にあります。しかし、この時期の読書は、人生を豊かにする可能性を秘めています。想像力・判断力を育て、生涯をとおした読書習慣を身に付けるための大切な時期でもあります。保護者は、この時期の子どもの読書を温かく見守り、興味をもち続けることができるよう励ますことが大切です。

(2) 家庭での取り組み

○ 生活の中で 一本のある環境づくり

子どもが本を読みたくなった時、手の届く場所に本がある環境を作ったり、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだりするなど、子どもが本と出会う、本とふれあうきっかけを作ることが必要です。また、子どもが読んでいる本を保護者が読むのも、子どもが本に親しむきっかけになります。読書の中で子どもが感じたこと、考えたことなどを積極的に話し合うなど、読書への興味や関心を引き出しいつでも本に親しめるよう、子どもに働きかけることが望まれます。

○ 読み聞かせ

子どもはおはなしを聞くのが大好きです。絵本を読んでもらうことで、言葉のリズムや響きを楽しみます。また、新しい言葉を知り、豊かな感性や想像力を身につけて行きます。

読書の楽しさを体験した子どもは、自ら進んで読書をするようになります。

○ 保育園の絵本コーナーや小学校・中学校図書室、町立図書館の利用

子どもにとって保育園や小学校・中学校は、家庭とともに身近な生活の場であり、家庭にない本や紙芝居などに触れることができる場でもあります。本のある環境を作るために身近な施設を積極的に利用し、子どもがたくさんの本に出会う機会をもつことが大切です。

○ 八丈町全体の読書環境整備への協力

家庭内だけでなく地域、保育園、小学校、中学校など、子どもが本に触れる場所や機会を整えていく意識をもつことが大切です。おはなし会や文庫まつりなどのイベントに積極的に参加したり、保育園、小学校などで行われている読み聞かせに協力することは、八丈町全体の読書環境を整えることにつながります。

2 地域での読書活動

地域でも、家庭での読書活動同様、子どもが読書に興味や関心をもてるよう子どもに働きかけることが望まれます。

地域全体が子どもの読書の大切さを理解し、読書の機会や場を提供できるよう支援する必要があります。

(1) 地域での読書活動推進への働きかけ

地域で広く本に触れる機会、それがおはなし会や文庫まつりです。

○ おはなし会

各地域の子ども文庫や、子育て中の保護者団体で実施しているおはなし会をとおして、本の楽しさを伝え、子どもが本に触れる機会を増やします。

また、保育園や小学校でも地域ボランティアや保護者が読み聞かせを行い、地域全体で子どもの読書活動を支えています。

○ 文庫まつり

年1回絵本作家などを講師として招き、本に広く興味をもつように子どもに向けて読み聞かせや工作を行います。

講師自身が自分の絵本を読んだり、プロジェクターを使用して絵本をスクリーンに映したりするため、いつものおはなし会とは違う環境で読み聞かせを楽しむことができます。

3 各年代における読書活動

読書活動を推進していくためには、読書の量を増やすだけでなく成長段階に応じ継続して働きかけることが必要です。

その際、本を読み聞かせることを義務ととらえたり知識の獲得や教育を目的とするのではなく、読書が心を豊かにする営みであることを伝えていくことが大切です。

(1) 0歳児に向けた取り組み：本に出会う

赤ちゃんが周囲の人をとおして本と出会う、大切な時期です。

また、五感を使って本がどのようなものなのかを認識する時期でもあります。言葉の意味が分からなくても、読む人の声や絵などに反応し楽しんでいきます。周囲の人に読み聞かせをしてもらい、一緒に本の楽しさを味わうことは、赤ちゃんにとって周囲の人とつながるきっかけとなります。

○ ブックスタート

赤ちゃんと保護者に、絵本をとおして心ふれあう時間をもつきっかけを届ける活動です。《本との関わり》の第一歩になります。

3～4か月乳児健診時、ボランティアが赤ちゃんと保護者に読み聞かせを行います。その様子を見てもらい絵本を手渡すことで、読み聞かせへの関心を高め、赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむきっかけを作ります。また、おすすめの本を紹介したり、町立図書館の利用方法を説明するなど、赤ちゃんからの図書館利用につなげていきます。(町立図書館)

○ 家庭での本とのふれあい

赤ちゃんに保護者が絵本などを読み聞かせ、親子が共に楽しい時間をもつことが望まれます。ブックスタートをきっかけに家庭でも積極的に読み聞かせをし、本とふれあう時間をもつことをすすめます。(家庭)

(2) 幼児期に向けた取り組み：本の楽しさを知る

自分で本を手に取り、本の楽しさを知る時期です。この時期の読書は、想像力を育て、感受性や探究心を豊かにします。また、言葉の習得や、文字への興味・関心をもち、さまざまな体験をすることで知識をより深めていきます。文字を読めるようになる子どもも増えますが、まだまだ耳からの読書が大切な時期です。その重要性を周囲の大人が認識する必要があります。

子どもが多くの本と出会うことは、読書を習慣化していくうえでとても大切です。保育園や子ども文庫などの関連団体と連携しながら、読み聞かせの実施やおはなし会への参加を積極的に行い、子どもがたくさんの本に出会い、本の楽しさを知る体験をもつことが重要です。

○ブックスタートの次へ

1歳6か月児健診の際おすすめ本リストを渡し、年齢に合った本や興味をもった本を選ぶためのお手伝いをします。いろいろな本を知ることによって、それぞれの本の楽しさを知るきっかけになり、選ぶ本の幅が広がります。(福祉健康課、子ども文庫、町立図書館)

○保育園での読み聞かせ

保育士や地域ボランティアが読み聞かせを行っています。さまざまな人から読み聞かせをしてもらうことで、子どものお話を聞く力が鍛えられます。(保育園、地域ボランティア)

(3) 小学生に向けた取り組み：本に親しみ、本の世界を広げる

いろいろな体験から本の内容を豊かに想像できるようになり、感性が磨かれ、読みたい本が広がる時期です。また、子どもにとって家庭と共に一番身近な学習・生活の場である学校での読書体験は、生涯にわたる読書習慣の形成に大きな役割を果たします。多くの友達と一緒に、読書の楽しみや喜びを共有する経験を重ねることも大切です。

各小学校では、それぞれの実態や子どもの発達段階に応じて読書の楽しさや良さを味わうことができるよう、町立図書館の団体貸出や読書相談を活用し、読書指導の充実を図っていきます。また、図書担当教諭と町立図書館司書との連携を強くします。

○ 町立図書館ガイダンス

町立図書館の司書が各小学校の新1年生に向けて、ガイダンスを行います。本の場所や貸出・返却の方法、調べ物の相談受け付けなど利用方法を説明し、学校をとおして貸出カードを作成することで、すべての子どもが町立図書館を利用できるようにします。(小学校、町立図書館)

○ 学校図書室の利用

小学生が学校内で本に触れる場所です。それぞれの読書実態に応じた本や調べ学習などに役立つ本を置き、学校図書室の機能を向上させます。

また、教員や子ども同士でおすすめの本を紹介したり、図書委員会を中心に利用が楽しくなる運営を行うなど、読書の楽しみや喜びを共有できる図書室づくりを進めます。(小学校)

○ 中学校との連携

絵本の楽しさを伝えるため、中学生が小学生に読み聞かせをしています。年齢が近い人に絵本を読んでもらうため、読み聞かせの楽しさをより深く知る機会になります。また、中学生との交流の場にもなります。(小学校、中学校)

(4) 中学生に向けた取り組み：本から学び、自己に活かす

読書をとおして人生を豊かにする時期です。目的に応じて自主的に読書することが望めます。友人関係や興味をもつ事柄が広がる時期でもあり、さまざまなジャンルの本に触れ、目的に添った本を読むことができる読書環境が必要です。読書を自己に活かそうとする姿勢を育み、知識を広げ自分の考えを深められるように、学校図書室の利用のほか、町立図書館の団体貸出や読書相談を活用し、読書環境の提供を図っていきます。

自分の興味・関心がある事柄に対しては広く掘り下げて調べる一方、読書に対する関心の度合いが個人により異なっていきます。息抜きする時間としての気軽な読書にも意味がありますので、自分が求める本を選び、向き合う時間をもつことが大切です。

○ 学校図書室の利用

目的に応じて本を選べるよう蔵書の充実を図ります。さまざまなジャンルに興味をもてるように、図書委員会が中心となり本のキャッチコピーを作ったり、委員会だよりにおすすめ本を紹介します。また、要望を反映した本の購入や展示の工夫など、活用される図書室の運営を進め、子どもがより一層本に親しめるよう努めます。(中学校)

○ 小学校との連携

絵本の楽しさを伝えるため、中学生が小学生に読み聞かせをしています。練習する中で、読解力や表現力が磨かれます。自分達が読み聞かせをしてもらった時の楽しさを小学生に伝えるとともに、交流の場にもなります。(小学校、中学校)

4 町立図書館での読書活動

子どもの読書活動を推進するためには、身近な場所で読書ができる環境を整備していくことが重要です。図書館は子どもが家庭や学校以外で本と出会い、読書を楽しめる場所であり、地域における子どもの読書活動推進の中心となる施設です。町立図書館は、子どもの利用に応えるため豊富な資料を揃え、配置場所や見出しを工夫します。また、本や読書に関する案内や相談に乗るなど、子どもが本に触れる機会を多くするよう努めます。

(1) 各年代に向けた取り組み

○ 幼児に向けて

おすすめ本の情報提供や、団体貸出をします。(町立図書館)

○ 小学生に向けて

小学校の要請に応じ、図書館見学を実施しています。子どもが図書館を知り、身近に感じる体験をもつことで、自主的に図書館を利用したいと思える環境づくりを進めます。また、小学校から依頼された学習テーマに沿った資料について相談に応じ、要望に合う資料を揃えて団体貸出をします。(小学校、町立図書館)

○ 中学生に向けて

中学校の要請に応じ、職場体験の受け入れを実施しています。また、中学校から依頼された学習テーマに沿った資料について相談に応じ、要望に合う資料を揃えて団体貸出をします。(中学校、町立図書館)

○ 小学校・中学校の図書担当教諭との連携

小学校・中学校の図書担当教諭と情報交換を行い、各学校の要望や実態に応じた協力を行います。(町立図書館)

(2) 読み聞かせの勉強会

講師を招き、絵本や読み聞かせの勉強会を行います。絵本の作者を知ること
で作品への理解が深まります。また、読み聞かせを行う際の注意点を知ること
で、より楽しめる読み聞かせを行うことができます。(子ども文庫、町立図書
館)

(3) おはなし会や文庫まつりなどイベントの開催

本を読むだけでなく、さまざまな形で本に触れる機会を提供することが大
切です。おはなし会や文庫まつりなど読書に親しむイベントを実施し、異なる
年齢の子どもが本をとおして交流する機会を作ります。(子ども文庫、町立図
書館)

(4) 各年代向けのおすすめ本リスト作り

子ども文庫と協力して各年代向けのおすすめ本リストを新たに作成、配布
し、子どもが興味をもてる本を紹介します。

リストには読み聞かせに向けた本や選書のアドバイスも掲載し、保護者も
子どもの読書に興味をもてるようにします。(子ども文庫、町立図書館)

(5) 読書の楽しさや2次計画を広く知らせる

各保育園や小学校、中学校などにおすすめ本のポスターを掲示し、年齢に応
じた本を紹介します。また、図書館ホームページを充実させるなど様々な形で
2次計画の広報に努めます。(町立図書館)

(6) 関連団体との連携

子どもの読書活動の推進は、地域で文庫活動などを行っている多くの住民
の力によるところが大きいと言えます。町立図書館はその活動を支援し、協力
して子どもの読書活動の推進を目指します。

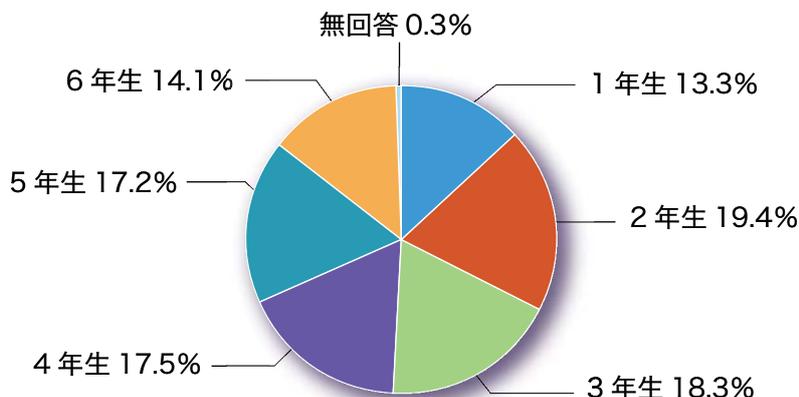
また、子ども家庭支援センターや学童クラブと連携し、町立図書館で除籍し
た本や雑誌などを再活用していきます。(町立図書館)

資料編 八丈町 読書についてのアンケート

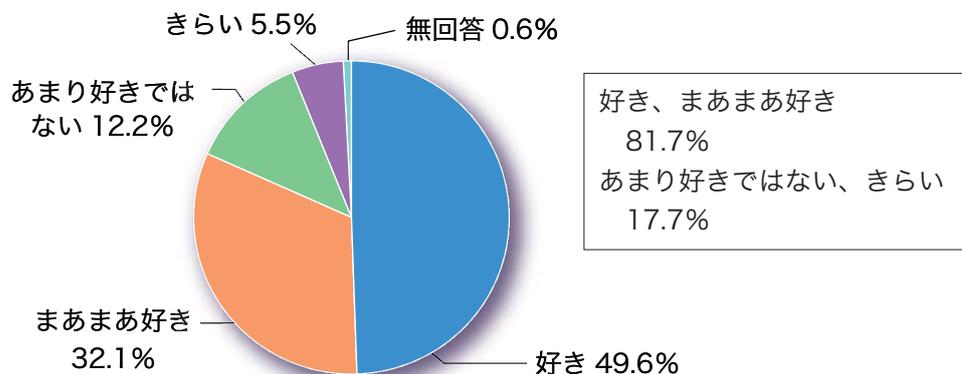
(平成 27 年 12 月実施)

I 小学生対象：379 人中 361 人回答（回答率 95.3%）

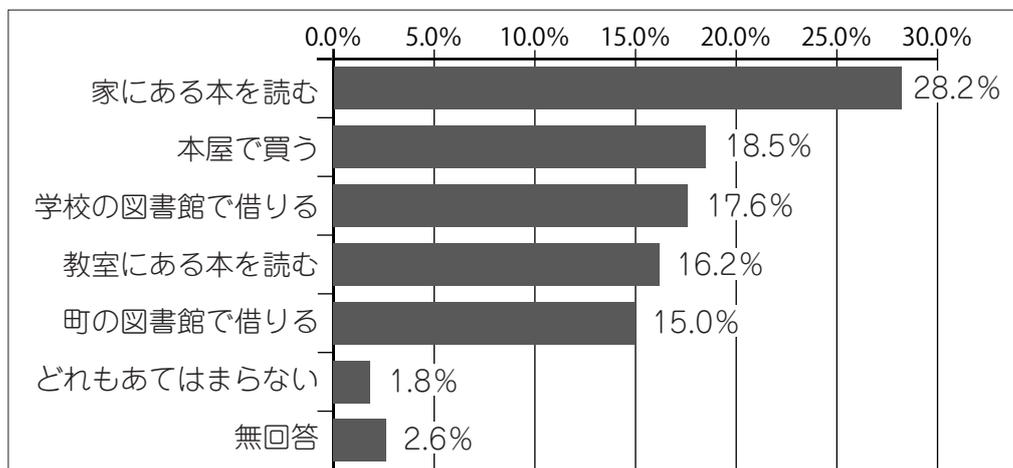
1. あなたは何年生ですか。



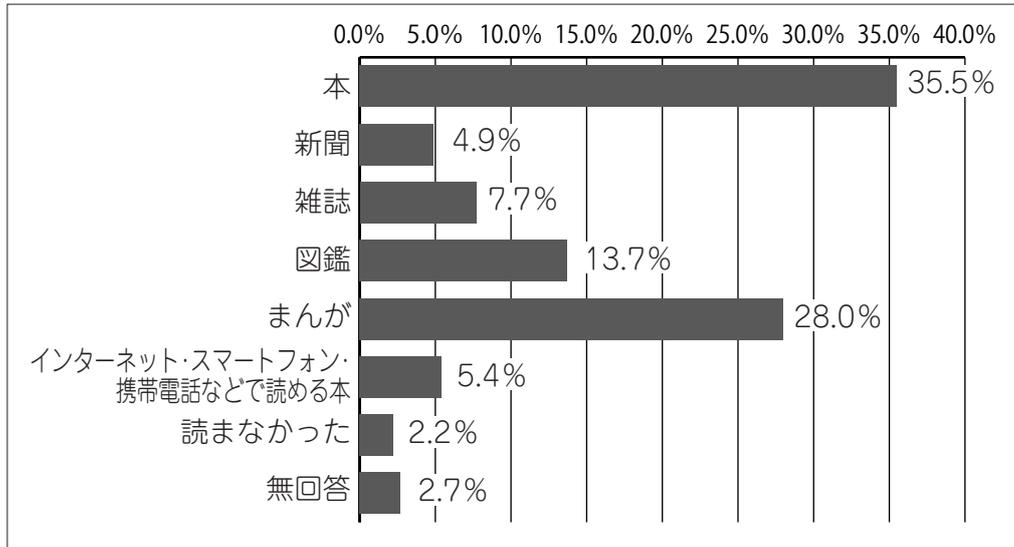
2. あなたは本を読むことが好きですか。



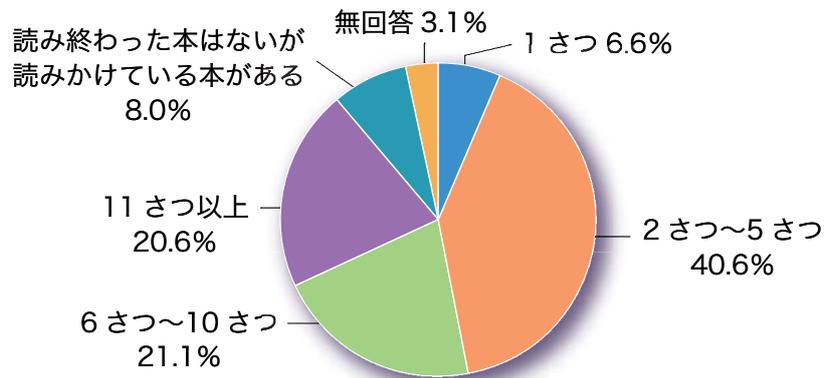
3. あなたは本を読みたいと思った時、どうしていますか。（複数回答可）



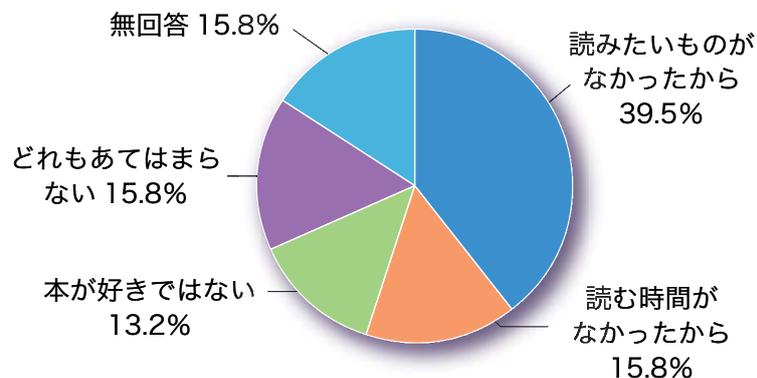
4. この1か月間にどんなものを読みましたか。朝読書や、授業の中で読んだものは数えません。(複数回答可)



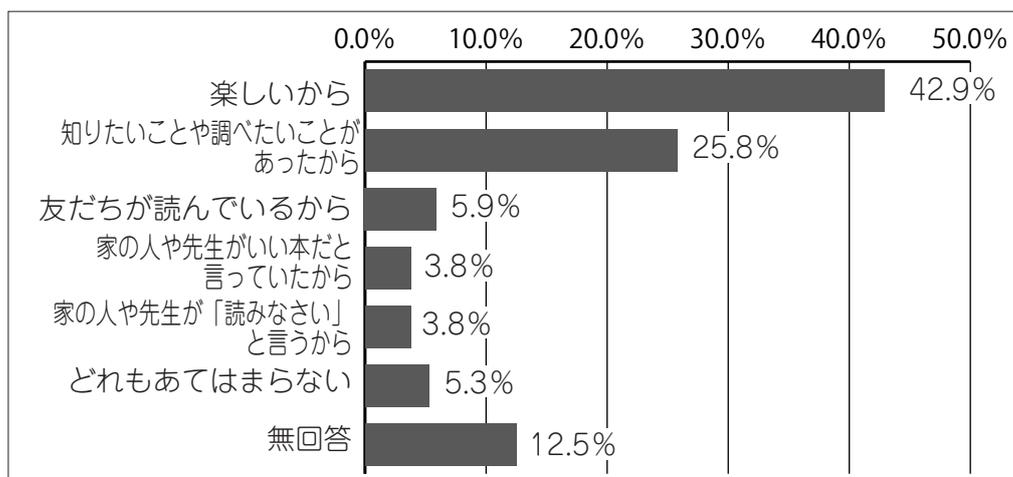
〈読んだ本がある〉この1か月間に読み終わった本は何さつですか。



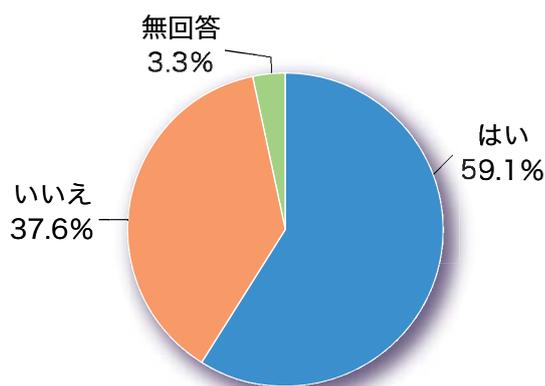
〈読まなかった〉読まなかったのはどうしてですか。



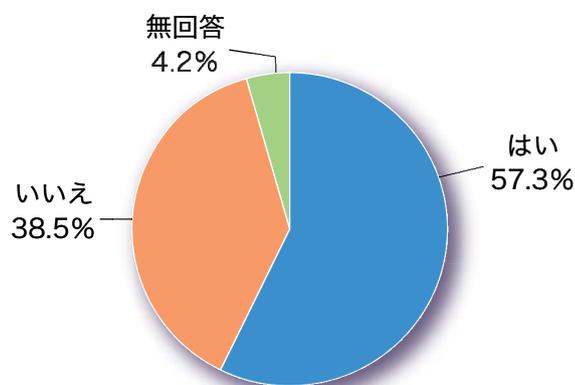
5. あなたが本や雑誌、新聞などを読むのはなぜですか。(複数回答可)



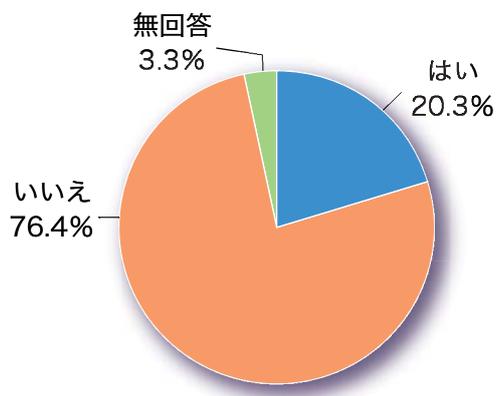
6. 4月から今までの間に、本を読んだり借りたりするために、学校の図書室に行きましたか。授業で行ったのはふくみません。



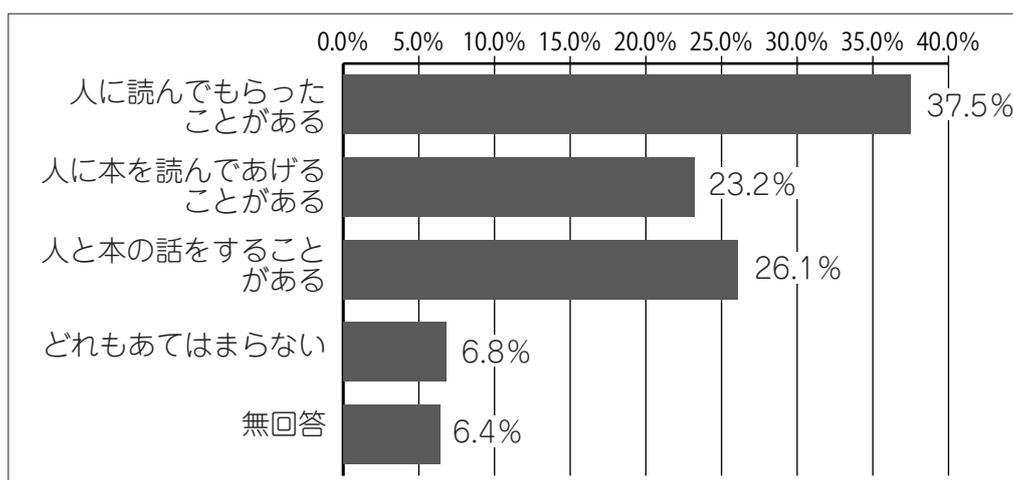
7. 4月から今までの間に、本を読んだり借りたりするために、町の図書館に行きましたか。勉強のために行ったのはふくみません。



8. 4月から今までの間に、地域の子ども文庫や町の図書館のおはなし会に行ったことがありますか

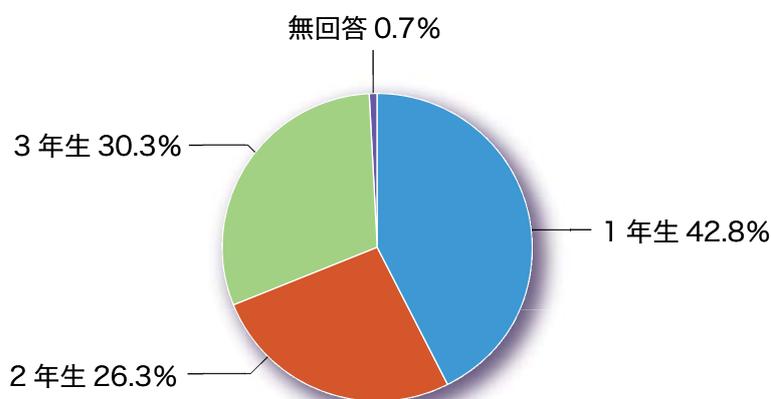


9. あてはまるものがあれば、○をつけてください。(いくつ○をしてもいいです)

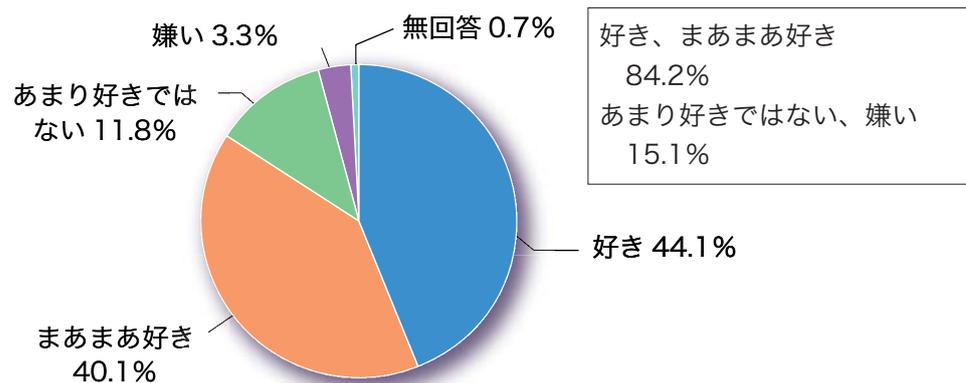


II 中学生対象：175人中151人回答（回答率 86.3%）

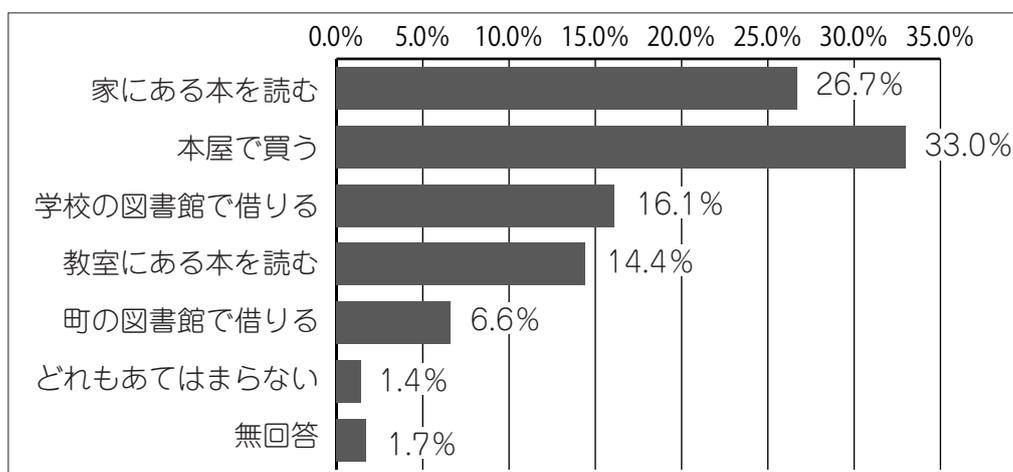
1. あなたは何年生ですか。



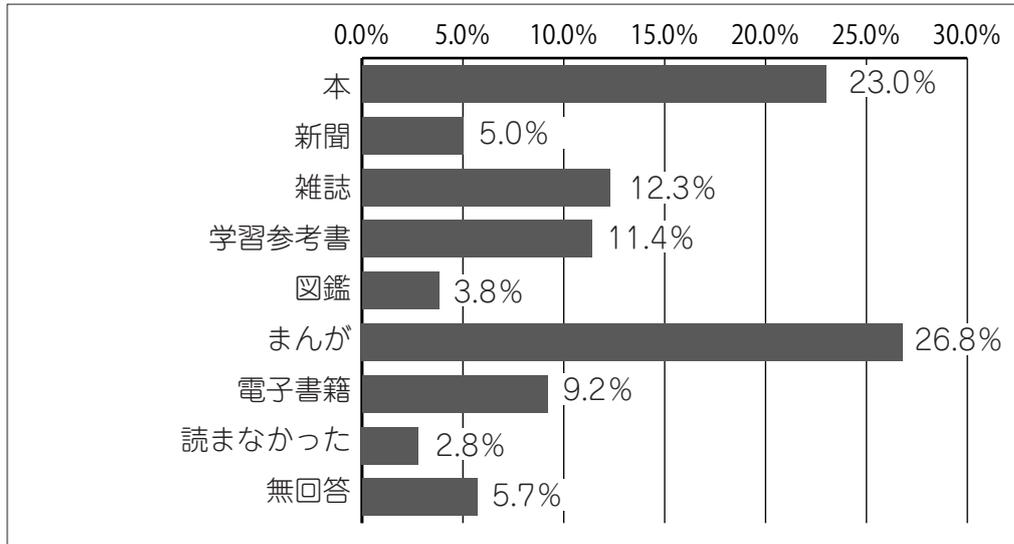
2. あなたは本を読むことが好きですか。



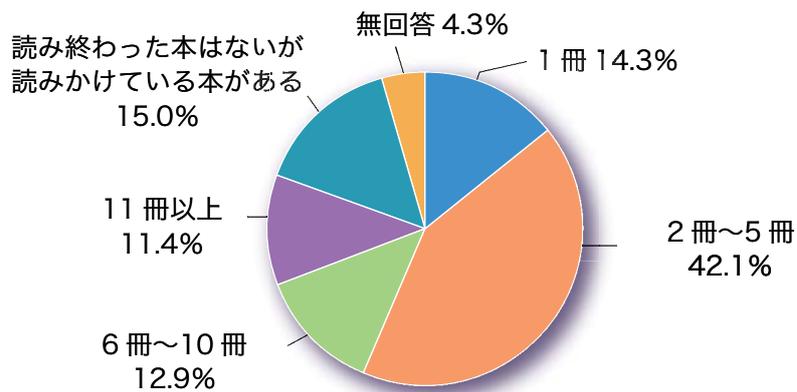
3. あなたは本を読みたいと思った時、どうしていますか。（複数回答可）



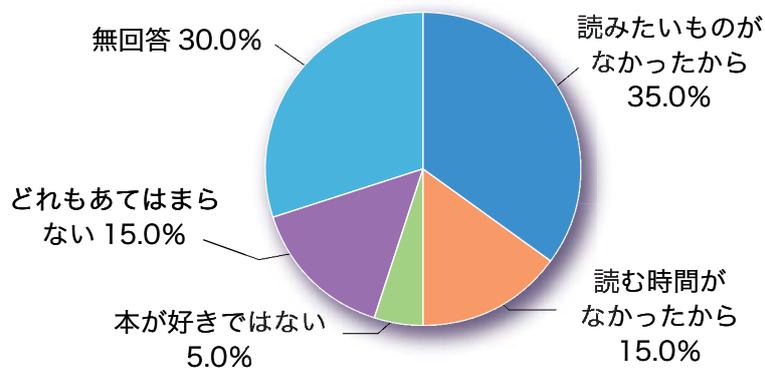
4. この1か月間にどんなものを読みましたか。朝読書や、授業の中で読んだものは数えません。(複数回答可)



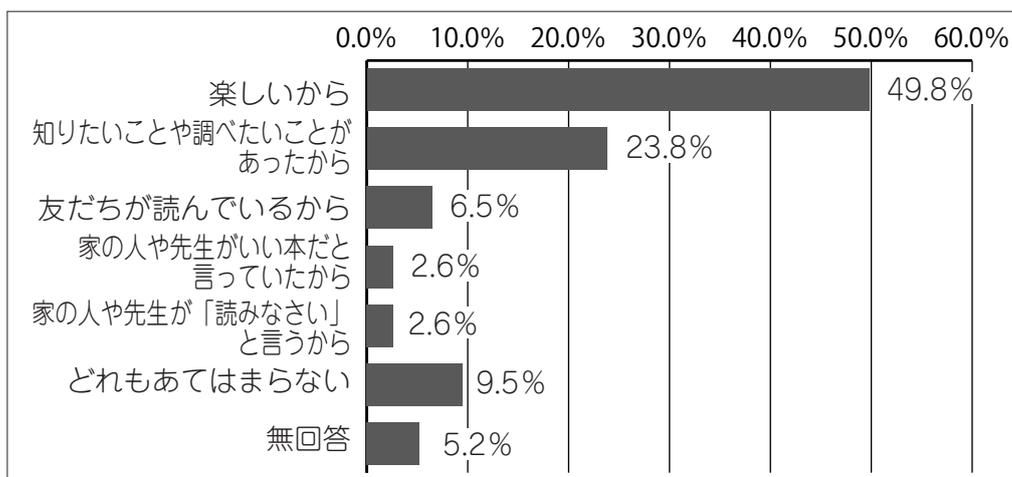
〈読んだ本がある〉この1か月間に読み終わった本は何冊ですか。



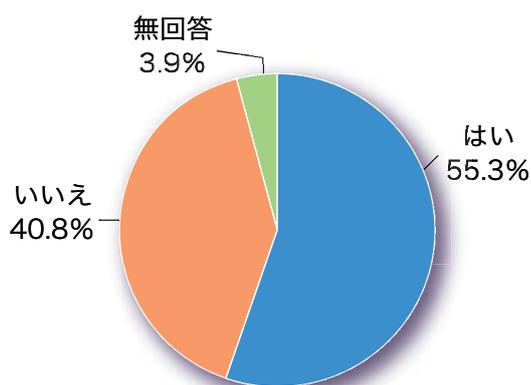
〈読まなかった〉読まなかったのはどうしてですか。



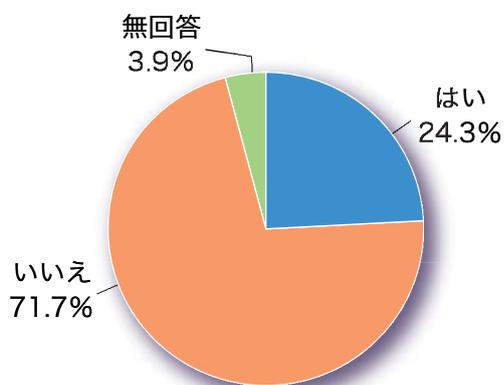
5. あなたが本や雑誌、新聞などを読むのはなぜですか。(複数回答可)



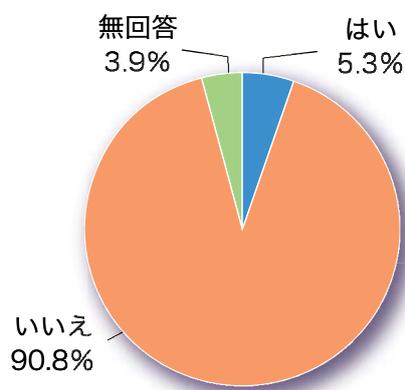
6. 4月から今までの間に、本を読んだり借りたりするために、学校の図書室に行きましたか。授業で行ったのは含みません。



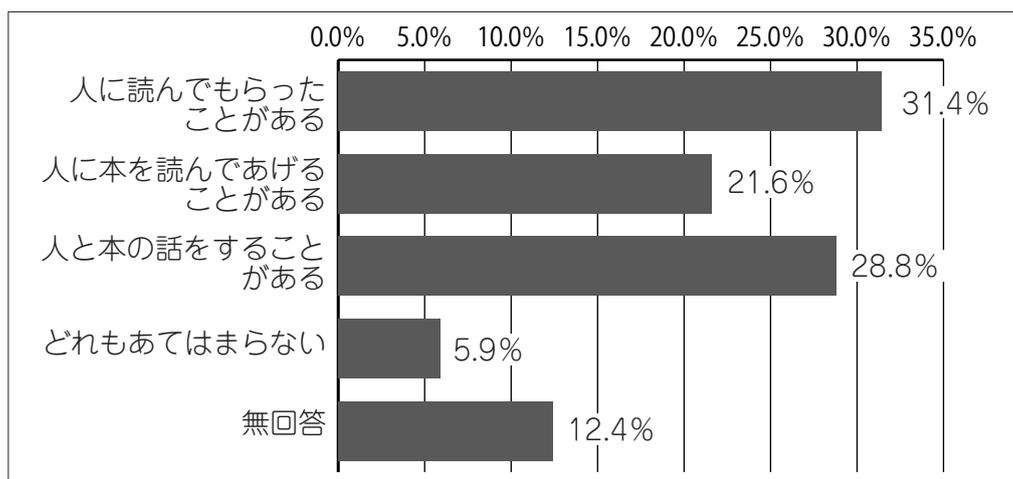
7. 4月から今までの間に、本を読んだり借りたりするために、町の図書館に行きましたか。勉強のために行ったのは含みません。



8. 4月から今までの間に、地域の子ども文庫や町の図書館のおはなし会に行ったことがありますか。



9. あてはまるものがあれば、○をつけてください。(複数回答可)



第2次八丈町子ども読書活動推進計画 2018年～2022年

平成30年3月発行

編集・発行 八丈町教育委員会

問い合わせ先 八丈町立図書館

〒100-1511 東京都八丈島八丈町三根26番地6

電話 04996-2-0797 FAX 04996-2-3859